

名古屋三越支部 第10期（2022・2023年度）の振り返り

【 第10期後半年度（2023年度）のトピックス 】

事業会社の動向

- ・ 2023年7月、栄店入居ビルの建て替え一時凍結発表
- ・ 2024年1月、エムアイプラザ各務原閉店

支部の動向

- ・ 2023年11月、5年ぶりのボウリング大会実施
- ・ 2024年2月、労働福祉ビジョン策定

【 第10期運動方針の考え方 】 ※第10期運動方針再掲

【包摂】 各活動や人をつなげて巻き込む

- ・ 労働組合における諸々の活動に関して、今までにプラスして巻き込んで実施することを目指す
- ・ 中でも専任役員だけでなく、兼任役員も中心とした組合役員全体でメンバーとの接点を拡大し、真にメンバーの声を吸い上げる「聴く」こと、またその声に対してフィードバックをおこなう「知らせる」ことに重きを置いてVOICEサイクルをまわすことに取り組む
- ・ VOICEサイクルを回すことにより、メンバー一人ひとりがモチベーション高く働くことのできる「働きがいのある会社」の実現を目指していく

【 活動の振り返り 】

全体の振り返り

- ・ 兼任役員を巻き込んだ活動を推進できた（例：労働福祉活動・労働福祉ビジョンの策定）
- ・ 外部との交流により、活動そのものや価値観・考え方の違いに対する気づきより自支部の活動へ生かすことができた
- ・ メンバーの声を真に聴くことまたその声に対するフィードバックについては、もっとメンバー視点に立って実施することが必要だった

◎：できたこと

- ・ 全メンバーに対するベースアップと賞与制度の見直しや時給制社員の時給UPなど処遇向上ができた
- ・ 経営懇話会の内容を組合役員と共有し、取り扱うべき議題についても執行部を中心に組合役員とともに検討できた
- ・ 他支部や他労働組合との交流会をもつことで、百貨店内にとどまらない多様な価値観にふれ、組合活動の活性化につながられた
- ・ 広報活動においては、内部むけにはHP・LINE・VIVA ENGAGE、外部向けにはXにて毎月継続的に発信ができた
- ・ 教育サポート活動では支部独自にセカンドプランを継続して実施し、リーダーを担い始めるタイミングでの知識のインプットや同期とのコミュニケーションの機会創出ができた

△：やりきれなかったこと

- ・ 働く環境の整備において、風土改革に対する具体的な取り組みが少なかった
- ・ ステージC・メイト社員の本給制度について、議論を開始できたが具体的な制度設計の労使合意までは至らなかった
- ・ 経営懇話会への兼任役員の巻き込みに課題を残した
- ・ 経営にとってもメリットとじてもらえるような説得力のある提言につながられるように、組合内部で議論を深められる環境づくりが必要
- ・ 外部との交流で学んだことや気づきをもとに継続したアウトプットをだせる仕掛けづくりが必要
- ・ 広報活動でメンバー接点となるLINEのお友達登録数が伸び悩み、有効な取り組みが不足した

【 第10期後半年度（2023年度）支部活動費の執行について 】

予 算	実 績	執行率
4,500,000円	3,975,475円	88.3%
<ul style="list-style-type: none"> ・ おおむね計画どおり活動を実行できた ・ レクリエーション費については、レクリエーション補助制度のメンバーへの周知徹底が足りなかった 		

名古屋三越支部 第11期（2024・2025年度）運動方針（案）

◆考え方

中期（2028年度）のあるべき姿

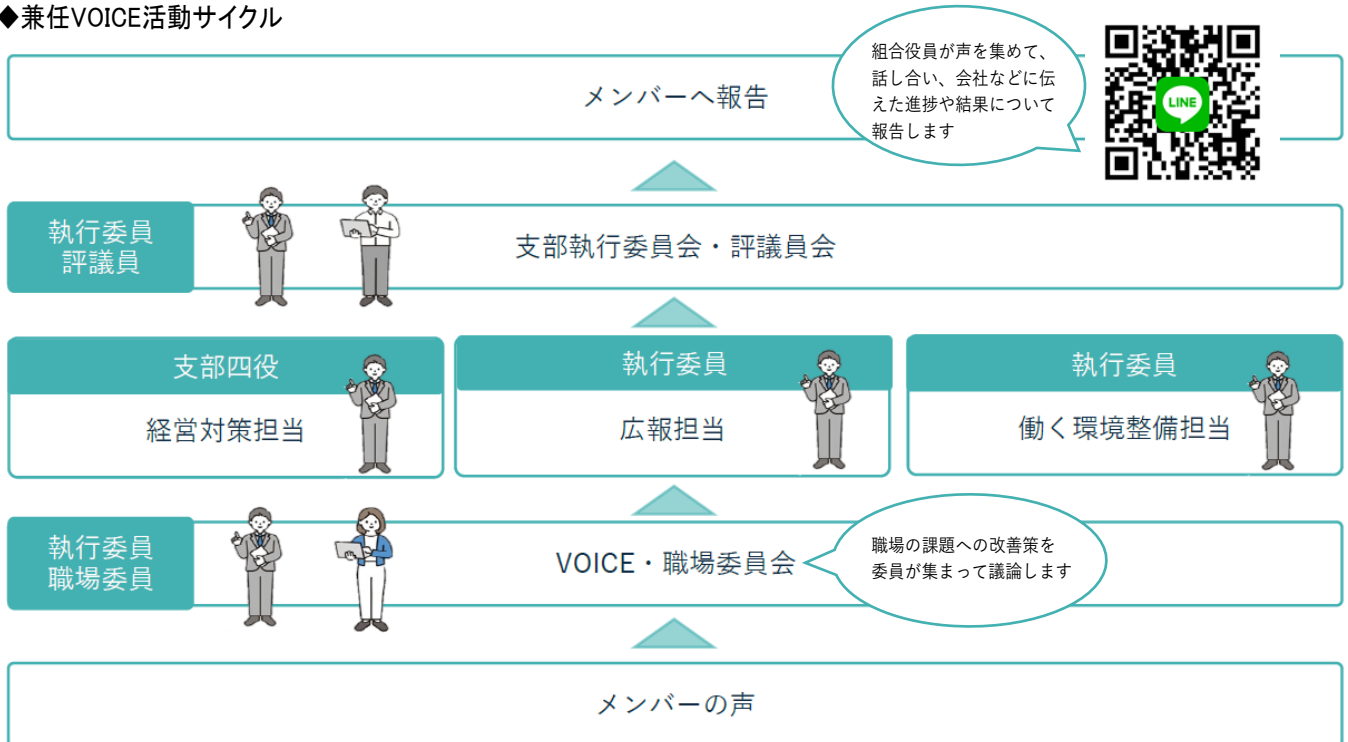
1人1人のよさを発揮し、楽しみながら挑戦できる会社

第11期をつうじて実現したい「ありたい姿」	第11期運動方針のテーマ・考え方
<ul style="list-style-type: none"> ・労働組合自らが率先し楽しみながら挑戦をしている ・組合役員がメンバーにとって身近な相談役である 	<ul style="list-style-type: none"> ・変化を前向きにとらえて自ら行動をおこす ・組合役員とメンバー全体を巻き込んだ活動の実施

◆組合役員構成



◆兼任VOICE活動サイクル



名古屋三越支部 第11期（2024・2025年度）運動方針（案）

【 取り巻く環境 】

- ・ 訪日観光客数の増加や日経平均株価の上昇、賃上げムードの上昇など日本経済全体には明るい兆しが立ち込めている
- ・ 名古屋三越においても、2023年度に5期ぶりの営業黒字へと転換した
- ・ 一方で、愛知県人口は2020年、名古屋市人口は2021年より減少に転じていることや2026年の栄地区の開発といった競争激化の兆しもある
- ・ このような状況を見据え、攻めへと転じられるよう栄店の構造改革を含む次期中期計画の策定をおこなっている

【 重点取り組み（具体的な活動） 】

VOICEサイクル推進

- ・ 執行部内に下記3つの重点活動の担当をおくことで、前期よりもメンバーの声にもとづいた活動へと進化させる
- ・ 職場委員会やテーマ別VOICE、レクリエーションなどリアルの場でのメンバーとの接点を増やしていく
- ・ 集めた声に対して、メンバーの視点に立ったタイムリーかつわかりやすいフィードバックをおこなう

労働福祉活動

- ・ 労働福祉ビジョンや次期中期計画といった中長期のあるべき姿を意識しながら制度や運用・考え方を策定する。とりわけ、本給制度や賞与の在り方の検討、労働時間管理・ハラスメント防止の基本ルールの周知徹底について取り組む
- ・ 前者の人事賃金制度については執行部内に経営対策担当、後者の働く環境全体については執行部内に働く環境整備担当を設け、さらにメンバーの声にもとづいた議論ができる体制を整える

経営対策活動

- ・ 執行部内に経営対策担当を設け、メンバーの声をもとに経営に伝えるべき内容の議論をおこない、経営懇話会へとつなげる。また実際の経営懇話会へも議題におうじて出席する
- ・ 多様な価値観に触れ、自支部へ新たな視点と考え方を取り入れられるようにグループ内企業、同業また異業種他労働組合との交流を継続しておこなう

広報活動

- ・ 労働組合の活動すべての情報を集積しているHPからメンバーが必要な時にいつでも情報を収集できるように、HPの認知度をあげていく。具体的にはまずHPの存在を知ってもらうために、メンバー興味関心の高い内容をHPリンクも掲載しながらLINEで配信する。
- ・ より多くのメンバーにみてもらうためには、カジュアルな労働組合との接点であるLINEのお友達数を増やす必要があるため、組合員のカバー率向上について執行部内に広報担当を設け、取り組みをすすめる

【 第11期前半年度（2024年度）支部活動費予算について 】

予 算	前期実績	前期比
4,100,000円	3,975,475円	103.1%
<ul style="list-style-type: none"> ・ 第11期も第10期から継続し、各活動を1つの点としてとらえるのではなく、さまざまな人を巻き込みながら各活動をつなげて実施する ・ メンバーと組合役員またメンバー同士のコミュニケーションを強化できるように予算策定をおこなった ・ 1点目はVOICE活動について、出張所勤務者や出向者に対して現地に赴いてのテーマ別VOICEを継続していく ・ 2点目はレクリエーション活動について、第10期までレクリエーション補助制度を実行していたが、これを職場懇親会補助へと変更していく。これによりメンバー同士のカジュアルなコミュニケーションの醸成につなげたい思いがある。支部独自のレクリエーションも計画。 ・ 3点目は広報活動について、予算をなしとしている。これは今まで紙で発行していた広報誌をやめ、タイムリーかついつでもどこでも組合情報にアクセスできるようLINEの発信を中心とした活動とするためである 		